



歴史資料館だより

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三-1855 浜松市北区三方原町三四五三
聖隷クリストファー大学五号館一階
TEL 〇五三(四三九)三四〇七
FAX 〇五三(四三六)五三五五

◆聖隷歴史資料館 開館時間のご案内◆
平日(月～金)の10時～17時
(土・日・祝日と 聖隷学園の休日は休館)

『2021年度聖隷グループ キリスト教信徒交流会』 延期のお知らせ

コロナ禍により昨年度は信徒交流会を次年度に延期としました。既にクリスマスアドベント期間に入っておりますこの時期に今年度も延期のお知らせとなりましたことをお詫びいたします。

聖隷グループの法人、施設、そしてそこで働く皆様、また聖隷を支えてくださる多くの方々それぞれが苦しい時を送って来られたことと思います。

昨年度から引き続き信徒交流会の幹事法人である神戸聖隷福祉事業団と聖隷歴史資料館運営委員会とで今年度の状況を見守っております。さいわい国内の感染者数は減少に転じ、社会活動、家庭生活等が徐々に以前にもどりつつあります。今しばらくは注意深く状況を見守り、共に集える時期を待ちたいと思います。

今号では、聖隷学園長谷川了理 院長の遠州栄光教会及び都田図書館主催「郷土講座」での講話を掲載し、聖隷のはじまりと長谷川保の生きざまを物語るエピソード、合わせて聖隷グループ法人の現在とこれからを報告いたします。

《長谷川保と聖隷》

聖隷学園理事長 長谷川 了



「私は長谷川保も
10人の四男です」

●聖隷のはじまり

聖隷のしごとは、1930年、今から91年前に、桑原青年が結核のために浜松の町で20数回追いつき出されてもう行くところがない、自殺するしかない助けを求めて来たときに、キリスト教会に通うわずか5人の青年が10円づつを出し合った50円で、自分たちが住んでいた場所を改造して受け入れたことから始まっています。

現在では社会福祉法人、宗教学院、財団法人、学校法人の15、6の法人から構成されて、8つの病院、200を超える高齢者や障がい者などの福祉施設、聖隷学園も今はこども園、小・中・高等学校、専門学校、大学は看護、社会福祉、リハビリテーションの3学部、7つの学科、全体で学生・生徒数は3500人前後です。正確にはわ

●聖隷とは

「聖隷」とは「聖なる神の奴隷」という意味です。「聖なる奴隷」ではなく「聖なる神の奴隷」というのが正確な表現です。「主人の命令に忠実に従いながら報酬を求めない」、「報酬を求めない」というところに奴隷の特徴があります。「神の奴隷」というのは神様の道具、手足となつてこの地上で神の意思を実現することです。これは実際やってみるとなかなか難しい。神と自分の良心にのみ従って生きる、すなわち聖隷で働く、あるいは聖隷に生きるということは社会的地位、名誉、お金等に支配されない生き方を求められます。

今、聖隷三方原病院の屋上にヘリポートがあつていつでもヘリコプターが飛んでいます。40年前にそういうことを目標にして実現

●聖隷浜松病院未熟児センター開設

聖隷浜松病院の未熟児センター(当時)は東海地方で初めてできたものです。当時、障がいをもって生まれてくる子供が5%くらい、その半分約2.5%が難産とか未熟児で障がいをもって生まれました。障がいをもつ子供をお世話することも大事ですがそういう子供をつくらな

い、それを防いでいくことがもっと大事だということから始めたものです。当時、年間2億円くらい赤字が



出るといふ試算、これは大変だといふことでしたが、実際にやってみると厚生労働省がこういう施設が日本に必要だと保険点数を上げてくれて実際には大きな赤字を出すことはなかったのです。

●エデンの園とヘルパー学園開学

聖隷クリストファー大学には社会福祉学部があり4年制の学部の前は介護福祉専門学校でした。その前にヘルパー学園がありました。1978年3月下旬に長谷川保が聖隷学園に来て「了くん、ちよつと話がある。憲法25条のすべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利がある、ということから憲法13条の国民は個人として尊重され、幸福を追求することが最大限に尊重される、ということに福祉の根拠を移す必要がある」。そしてエデンの園を造ったわけですが、「一施設に最低10人はヘルパーさん（今でいう介護福祉士）が必要だから、毎年1000人づつヘルパーさんを養成する学校をつくってほしい。急いでほしい」と。私は、日本で初めての学校だから先生や校舎を探しカリキュラムをつくって1年間準備をし来年から開校してはと提案しましたが「エデンの園ができて軌道に乗ってきた、全国に拡げていくのに来年まで待てない、今年からやるように」と言われました。私が今からは学生募集も難しいし今年は無

理だと言うと、「お前はやる気がないからそう言う。校長は短大の津久井教授、校舎は昔結核病棟だった倉庫を借りればよい、カリキュラムはやりながら考えれば何でもない、できるかどうか結果はやってみなければわからんではないか」と言つて、私が渋っていますと「直ちにやるように！」と大声で言つてさつさと部屋を出て行きました。

1974年11月
現建築理事
長谷川保の園エデンの園
立エ湖名濱
場（当時）



5分ほどすると母親から電話で「今学校でなにがあつた？」と。糖尿病と緑内障があるので急に血圧が上がって家の玄関で倒れてそのまま三方原病院の救急に運ばれて入院してしまいました。

しかたなく私はそこで学生募集をして専任の先生2人と学生9人、聴講生5人のヘルパー学園が始まりました。長谷川保の予言どおり1カ月半後の5月の中旬でした。

それから10年間、修業期間は6カ月、4月の募集には12、3人集まるが10月の募集には2、3人しか集まらない。当時の学園の学生数は440人、高校衛生看護科に80名の3学年、短期大学が2年制で200人、ヘルパー学園だけで2千万円を超える赤字があり、このままいくと聖隷学園はヘルパー学園と心中してつぶれてしまうと真剣に思いました。何か理由があつたらやめたいと思つていました。しかし津久井先生は本場に立派で、毎朝一番に学校に来て礼拝をし、私どもも礼拝の奨励に駆り出される。使命感に燃えてどんどん前へ進んで行く、その姿に圧倒されるほどでした。

卒業前に実習先の施設や病院でお世話になつた方の前でその結果を発表するケアスタディ発表会というのがあつて、ある時車椅子に乗つたエデンの園の老人が大きな花束をもつて来られた。自分は90年近く生きてきたがこの学校の生徒ほど優しく温かくて親切な人に出会つたことがない、今日の発表を応援するため来た、というよ

うなことがありやめることができませんでした。

10年が経ち20回卒業生を出した1988年、厚生省（当時）は高齢化社会を迎えるにあたり10万人の介護福祉士を国策として養成すると宣言し、ヘルパー学園はそのモデルとなつて介護福祉士法が制

定され、聖隷介護福祉専門学校はその第一号として全国の26校とともに認可されました。

●溢れるような熱意が賛同者を

このときの長谷川保とのやりとりはその後の私どもの学校経営に決定的な影響を与えました。その後にはクリストファー看護大学・大学院、あるいは社会福祉学部、リハビリテーション学部、こども園、小学校、専門学校などに取り組みましたが、「できるかどうかはやってみなければわからない」の意味の深さを学んだように思います。どうしてもつくりたいという溢れるような熱意と誠実な行動があると、そのことを知つた周囲の人の中に賛同者をつくり、動かすことがあります。絶望的な事態に直面しながらもひたむきな努力を続ける時に思いもかけない人が助けてくれるということがあります。

私どもがこの大学をつくるときに東京海上火災保険株式会社（当時）が30億円の資金提供をしてくれました。これは貸すのではなく、無条件での寄付でした。唯一の条件は、これから高齢化社会になる日本で最も必要とされる人材を育成することでした。私のような若造にくれたのではなく、本当に困難な状況にあり迫害される人々と運命を共にして生き抜いたその先輩の志を受け継ぐ者であれば間違いがないだろうと寄付をしてくれたと理解しております。私は長谷川保から本当に社会が必要と



しているものはたとえその時は困難であつてもやがて世の中が変わって存在できるようになる、いちばん危ないようであるが、いちばん確実な方法でということをお教えられたように思います。

●多くの迫害、一方で多くの応援

聖隷の歴史を見ますと多くの迫害を受けましたけれども熱心に応援をしてくださった方々がいました。



吉氏 梅山氏 渡辺氏 川上氏
医師 兼 聖隷
市 嘉 市 氏

渡辺兼四郎先生、この方は浜松医科大学の初代学長を務めた吉利和先生の義父、渡辺先生も吉利先生も学生時代に聖隷の結核療養所へ往診をしてくれました。川上嘉一というヤマハ中興の祖といわれるヤマハの社長は早雲禄という日誌を何十年もつけていてその中で長谷川保のことを書いています。またロータリークラブをアメリカから日本に持ってきた三井財団の米山梅吉という方は3回にわたって4千5百円の寄付をしてくれました。天皇陛下からの特別御下賜金は5千円、今でいうと数千万円、

それと同じくらいの寄付を米山さんがしてくださった。このように、迫害を受けたけれども本当に理解して応援をしてくださった方もたくさんいたということです。

●メデイカル・スクール構想

聖隷学園は2027年くらいを目標にメデイカル・スクールをつくりたいと思っております。メデイカル・スクールというのは医師養成の専門職大学院です。日本では医者は高校を卒業して大学の医学部に入学し、6年間の教育を受け国家試験を経て医者になります。アメリカには医学部というのはひとつもない、64くらいあるのはすべてメデイカル・スクールです。大学の普通の学部を卒業した人に入学生資格があり、4年間の専門教育を受け国家試験を経て医者になる。その特長は、大学卒業後何のため医者になるのか、医者になって何をやるのか、目的・目標や使命などを確認して入学し、臨床の医師が中心になって後輩の医師を育てることにあります。

ここ数年、私はアメリカやシンガポールにメデイカル・スクールを見に行きました。そこではインターネットで世界中に学生募集をし、試験をして1学年50人に絞る。民族や宗教が違う学生たち、異なる学部の学生7、8人でひとつのグループをつくって課題のテーマを数人で話し合い、結論を出すことを繰り返す。

そうすると医者になったときに、どんな人種、どんな宗教の人ともコミュニケーションを十分にとる能力がある。世界26カ国から学生が入学しているそうです。マレーシアやインドネシアの大学も見ました。オーストラリアには12の医師養成大学があります。8つがメデイカル・スクール、4つが日本と同じ医学部でした。そして韓国にもフィリピンにもメデイカル・スクール、この太平洋を取り巻く地域で医者を養成する新しい大学は100パーセント、メデイカル・スクールです。

日本も今後人口が減っていくわけですから、外国人を多数受け入れないと経済が成り立たない。そこで聖隷の病院と学園が協力して、ここ数年、国が法律改正も含めて導入の検討を進めているメデイカル・スクールの日本を最初につくりたいと考えています。私が目指すところは、メデイカル・スクールが目指す世界中の国を超えた医療のできる医師の養成です。そういう意味で非常に画期的なわけです。

●グローバル・スクール構想

聖隷学園では小学校をつくって2年が経ち全学年がそろいました。日本人と外国人がペアで担任をします。日本語と英語で授業を受けまは英語だけになります。小学校から英語を自由に使える勉強をする。これを来年から中・高校にも取り

入れ、今進めているIB(国際バカロレア)という資格をとれるようにしたい。英語圏の大学をその国の子どもと同じ資格で受験でき、合格すれば入学できる。留学生ではなくその国の学生と同様に。途上国ははじめ世界中の国で活躍する学生がここから出てほしいと思っております。メデイカル・スクールは英語で授業をし、英語で実習をするので、40人のクラスで半分は日本人、半分は外国人に留学してもらい、(ここからは個人の考えの範囲ですが)聖隷の病院で研修をして世界の国へ行ってもらう、そして聖隷の病院には世界中から医師を集めることができる。そのためこの小学校、中学・高等学校を卒業した子供が外国にも行くけれども日本のメデイカル・スクールにも入学してもらいたいと考えております。

●どうせやるなら先頭を走れ

長谷川保が亡くなる数年前に住まの園を訪問しました。以前は「エデンの園を全国に百カ所つくりたい。私の寿命はあと10年くらいだから、毎年10カ所くらいつくる。だからヘルパー学園も1000人の養成をせよ」と。10年経って、エデンの園が全国に6カ所、ゆうゆうの里が5カ所、全部で11カ所、私は皮肉を込めて「100カ所つくると言っただけで11カ所だったね」と言いました。すると大きな声で笑いながらこ



う言いましたよ。「計画した中で1割できれば大成功。お前たちはびくびくして仕事をやるから、失敗はせんかも知れんが大したもののは残せんだろう。聖隷で4千5百人もの人が働いて、毎日何万人もの人のお世話をしていないか。一世代で70数カ所の施設ができて、これだけのことができた。大切なことは世の中が必要としていることを全力を挙げて果敢に実行することだ」と。またこういふこともよく言っていました。「どうせやるなら先頭を走れ、日本一を目指さなきゃいかん。人がやったことを真似してやるのは誰だってできる」。

実現させるのは言うほど簡単ではありません、大変に厳しい。その困難と厳しさに耐えていく精神力、それを切り拓いていく知恵と工夫が必要で、関わる人すべてが協力し、支え合うことが求められます。そうしたことをやっていく中で私たちは成長させられていくのです。さらに大切なことは、困難な状況の中にあつて道を切り拓くために苦闘している人たちの気持ちがかかること。聖隷学園は夏に教職員全体の研修会をします。そこで献金を集めます。またクリスマス礼拝で献金を集めます。年2回、集まったお金はブラジルとインドの施設に送ります。両国とも日本のように社会福祉制度が発達していなくてほとんどが寄付金で運営されており運営が困難なのです。それほど大きなお金ではありません。

せんが送る、そのことによってインドやブラジルの皆さんが、聖隷の皆さんはいつも自分たちのことを憶えて応援してくれる、そのころざしが本當にうれしいと感謝の手紙をくださいます。高校生もそうです。バザーをやつて集めたお金を送つていきます。

●最終的な報酬は満足感

1994年4月15日、当時の天皇・皇后御夫妻（今の上皇・上皇后陛下）は日本に最初にできた聖隷ホスピスを訪問されました。その2週間後の4月29日に長谷川保は召天しました。葬儀のときに母（長谷川保の妻・八重子）が倒れ、検査の結果肺がんであることがわかり、1995年2月15日に自分たちが最初につくったホスピスで召天しました。その2週間前に母は私たち子供を枕元に呼んでこう言いました。



まに川 功共谷
を、長
保えた
川支し子
谷、關重
長し、奮八

「聖隷で60数年間働いてきたが、過ぎてみれば昨日、一昨日のように思う。今思うのは最終的な私たちの報酬は満足感だった。心の底から湧き上がってくるような喜びと満足感だ」と。私もそのころざしを受け継いで生きていきたいと思っております。

聖書のことば

神の遍在

「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」 ルカによる福音書第二章十五節

学校法人聖隷学園 宗教主任 永井英司

クリスマスシーズンを通り過ぎ、中、「飼いや葉おけの中に寝ている乳飲み子（ルカ2章）」イエスに想いを馳せる。

閑話となるが、日本書紀（8世紀）下巻22には厩戸豊聡耳皇子（聖徳太子）の名と、その出生の状況が記録されている。

同時代になるのだろうか、キリスト教が中国に伝わり拡大、浸透していった歴史が刻まれた【大秦景教流行中国碑（8世紀）】がある。

遣隋使、遣唐使等が、大陸を行き来した頃の碑であろう。この模刻碑が高野山奥之院境内、京都大学総合博物館にある。2014年11月には、隣県春日井市にある日本景教研究会本部にも新たに設置され、国内3か所で直に見ることができよう。

厩戸豊聡耳皇子は皇太子となつて国政を任せられた後に、「十七条憲法」を制定したことは既知の事柄である。

憲法は、「国民のために、国民の権利・自由を国家権力から守るためにある。（日本弁護士連合会）」と言われる。十七条憲法の条項を見ると、第一条の「和を以つて貴しと為す」

に始まる各条項に、倫理的内容が謳い込まれていることに気づかされる。神定法と呼ばれる「モーセの十戒」の第五戒から第十戒の内容を彷彿とさせる。

また、同下巻22「太子と貴人」の項を読み進めていくと、隣人愛の実践を告げる「善きサマリア人（ルカ10章）」の譬えやイエスの復活を証言する「空虚な墓（ヨハネ20章）」の記事と部分的ではあるが、類似したような表現内容に驚きを隠せない。

閑話休題・・・イエスの福音は、聖霊に導かれた弟子たちや使徒たちによって世界中に齎された。その結果、時空を超えて今や私たちの身近にある。

モーセは「いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のよきな神を持つたいなる国民がどこにあるだろうか。（申命記4章）」と述べ、神の遍在と祝福の普遍性を告げている。

「過去のあなたは小さなものであったが、未来のあなたは非常に大きくなるであろう。（ヨブ記8章）」神の言葉は、歴史を貫いて人々の魂を養い生かし、多くの実を結び続けている。



聖隷グループ法人2021年度のはたらきとこれから

遠州栄光教会

星野牧師・倉持伝道師就任



星野 健 牧師

2021年の春に遠州栄光教会の牧師に就任致しました、星野健（タケシ）と申します。出身は長野県軽井沢町で、これまで秋田県由利本荘市、愛知県名古屋市、神奈川県川崎市の教会で仕えてきました。

医療、福祉、教育の働きを捧げる聖隷グループの豊かな交わりのなかで、キリストの福音の伝道と教会の形成に仕える恵みに日々与っていますことを、心より感謝致します。

新約聖書の福音書のなかに、病や障碍を負った子どもをキリストのもとに連れてきて救いを求める親たちが、しばしば登場します。聖隷グループの源にも、それらに匹たりと重なる「この子の五尺のからだを天地の間にいれる所がない」という深い嘆きの声に応えた人たちの祈りがありました。教会にお客様がくると、聖隷歴史資料館にお連れし、何度もお話を聞かせて頂くうちに、桑原昇次郎さんという一人の結核患者が、「可哀そうな病の人」ではなく、神が送られた使者だったのだと思うようになりました。

時代は大きく変わり、聖隷グループのお働きも大きく広がりましたけれども、教会が今も神の呼びかけに耳を澄まし、それに応える祈りの光を灯して歩むことが、皆様との交わりのなかで豊かに祝福されますよう祈り願います。



倉持おりぶ 伝道師

今年度から日本基督教団の教師となり、遠州栄光教会の伝道師に着任しました倉持おりぶです。「おりぶ」という名前は珍しいと思われませんが、聖書（詩編128編3節）から両親がつけてくれました。

兄は植物名ではなく、クラーク博士の言葉からとり、大志と言います。

神奈川県横浜市で生まれ、地名の「浜」つながりで親近感を抱きながら、浜松に参りました。父方の祖父は牧師、母の従兄弟は神父というキリスト教に囲まれた家庭で育ちました。父方の祖父は、医療伝道、朝鮮人伝道に心を砕きつつ、日本キリスト教団清水ヶ丘教会を開拓した牧師でした。この教会は第二次世界大戦の焦土、横浜の地で開拓された横浜福音医療宣教団による医療伝道、横浜ミッション診療所の働きの中から誕生しました。幼い時からこうした祖父の働きを家族から聞いていたため、キリスト信仰に基づいて始まった聖隷グループの愛の業に感銘を受けました。また清水ヶ丘教会は音楽コンサートやキャロリングで聖隷横浜病院と交流の機会をいただいていたため、不思議なつながりを感じています。

今も愛と希望の風が吹き続けているこの地域で働かせていただけて感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

神戸聖隷福祉事業団

2021年度の新しい事業

神戸聖隷福祉事業団は、前号（2020年臨時号）記事の事業を但馬地区（朝来市竹田）「多機能型福祉施設めぐみ」、神戸地区（須磨区友が丘）「神戸聖隷オアシス」という名称で2021年4月から開始しています。それぞれの地区ごとに新事業並びに関係事業を紹介いたします。

但馬地区では

2020年度に国と県の補助を頂き、「多機能型福祉施設めぐみ」建物（地上2階）を新設、2021年4月1階「放課後等デイサービスめぐみ（定員10名）」、2階「障害者グループホームめぐみ（定員6名）」を開設しております。

同地区では就学前児童、高齢、身体障害のある方への支援が中心でしたが、学齢期児童への支援が抜けており法人第3期中期計画において取り組みを計画いたしました。地域における就学





前の方から高齢の方までのネットワークを担えればと考えております。

また、聖隷歴史資料館だより第15号で2016年11月の開設をお知らせしておりました「神戸聖隷歴史資料館（但馬総合事務所）」はJR播但線竹田駅前で地域の方に親しんでいただいております。法人但馬地区の総合事務所として様々な活動拠点の働きが広がっています。



神戸聖隷歴史資料館

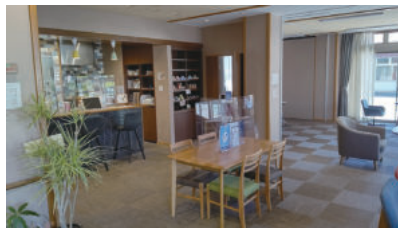
神戸地区では

法人本部がある神戸市須磨区友が丘に「神戸聖隷オアシス」（地上3階建）ビルが2021年2月に竣工しました。4月には3階に「グループホームのぞみ（定員8名）」（他のホームに比べてより多くの支援が必要な方を対象）2階に「法人本部」・「多目的作業場（神戸聖生園つばさグループ）」1階に「神戸聖隷総合相談センター」がそれぞれスタート。7月には1階に「Tunagari（あつまり処）」とい

うカフェをオープンして地域の誰かが寄って過ごせる拠点の一つになる歩みを始めました。



当カフェでは、まず地域の皆さんにこの場所を知ってもらおうと週3日（平日の月・水・金曜 11:30～16:00）に低価格昼食を提供しています。カフェのオープンから3カ月、地域の皆さんの口コミで、リピーターのご利用が増えていきます。福祉制度や施策の狭間で困られているケース等、例えば、フードバンク事業の拠点場所提供を通じて地域と繋がるような活動に取り組んでまいります。



新型コロナウイルス感染症防止対策の為、対策本部がリードする中で、但馬・神戸地区の各施設、事業所が一丸となって対応を実施しています。特に「三密」が発生する可能性のある場所、時間、イベントや行事について、中止や延期・

参加取止めを実施。施設内においてもマスクやフェイスガードを利用し、作業室、食堂、ソファ等でソーシャルディスタンスを意識した工夫をとりいれながら、完全な自粛状況から少しずつ元の状態へ戻りつつあるところです。第六波が来るかもしれないと言われる中で、まだまだ見えない部分もありますが、すべき対応はきちんとして、世の中の生活や事業活動の再開に対応していきます。

（10/20 理事 加藤成久）

ブラジル希望の家福祉協会



下本・明美・ジルセ理事長（中央）と入所者の方々

受け入れと保護

緑の祭典（フェスタ・ド・ヴェルデ）でボランティアを始めてから10年以上が経ち、希望の家の入所者の皆さんがどれだけ大切にさ

れているかを目の当たりにしてきました。そして希望の家の入所者と毎日毎日接するスタッフの方たちの献身的な働きぶりも知りました。食堂で働くスタッフも多々いますが、その方たちは1日5食を準備する必要があります。それ以外にも入所者が使用するための施設やそれらに関わる設備のメンテナンスを担当するチーム、来る日も来る日も掃除と洗濯を行うチーム、イタクアセツバとサンパウロにある事務所日々事務的な作業を行っているチーム。とにかくこのすべての作業は複雑で、しかも費用がかかります。

理事会をはじめとするイタクアセツバの本部事務所の様子

すべてが発展し、現在はその過程にあります。最近になって、持続可能で安全な手段の強化を目指す必要があるとつくづく思います。理事会は、ここで言う「清算」のための財源を集めるため必死に努力しました。請求書の支払いを月末までに済ませるために、急を要したのです。その後、少しずつ、理事会のグループがイタクアセツバの本部事務所で活動し始めました。従業員の近くにいるため、多くの手順を変更または改善することができました。また、間近で入所者に接することで、当然のこ



とながら彼らの要求や気持ちを理解することができるようになりまし

自立への目覚め

自立性については多くのことが言われています。医学界や保健当局は、入所者に自主性を持たせ、歯磨き、入浴、食事などを入所者自らが自然に行えるようにすることを推奨しています。自立性身に付けさせるには、それに対する知識を備えたスタッフが必要でした。それだけでなく、新しいスタッフの採用も必要でした。それまでの範例を変え、慣れ親しんだものから抜け出すことは決して簡単なことではありませんでしたが、結果から言えば、大変やりがいを感じる内容となりました。

自立性

レジーナはその一例であり、私たちがどのように正しい道を進んでいるかを示しています。今日、彼女はこの目的のために特別に準備された女性用住居の外に住んでいます。彼女は、私たちに、完璧に整理された彼女の寝室の衣装ダンスを誇らしげに見せてくれます。私は言います。「あなたのその目の輝きは、あなたがこれ



まで努力した全てを映し出している」と。

パンデミック

新しい、未知なるもの。運命はしばしば私たちを未来に向けて準備させます。希望の家の入所者に自立性が備わるよう努力していなければ、おそらく、パンデミックを乗り切ることができないでしょう。連帯精神で、入所者のディレクター、両親、親戚、ボランティア、友人、サポーターなど、社会全体が私たちをすぐに助けくれました。希望の家では2020年3月にすべての衛生対策とプロトコルである隔離および行動制限を実施しました。従業員には18人のCOVID-19（※ブラジルでのコロナの呼称）罹患者が出て自宅に隔離され治療を受けましたが、入所者からは一人も出ませんでした。この2年間、対面式イベントは中止になりました。これらのイベントは希望の家における総収入の約1/3に相当します。代わりに、「ストリーミング」と呼ばれるテクノロジーを使用してオンラインによる「Lives」を作成しました。運営費捻出のために開催した食事のデリバリー販売イベントも、安全を考慮したものでした。

(10/22)

理事長 下本・明美・ジルセ

インド 聖隷希望の家

コロナ禍を乗り越えて

日本の良き友人の皆様の愛、友情そして交わりを神様に感謝します。またコロナ感染による困難な状況に対してご心配をおかけしました。神様のお恵みと皆様のお祈りのおかげで、現在希望の家では多少の不調はかかえていますが感染者は全員陰性になり、元気にやっています。

最も大変な時期は9月でした。初旬に施設スタッフのひとりがコロナに感染したのち、2日後には12名の入所者、そして私と妻が次々に感染しました。ディル（※希望の家スタッフでアブラハムさんの次男・歯科医師）も感染しましたが、さいわい私たちが陰性に転じた後でしたので、彼がみんなのケアに奮闘してくれました。

希望の家ではこの1年半、近隣に住んでいる人たちに1日一食の昼食キットを提供していました。コロナ感染のために10日間の休止を余儀なくされましたが再開することができました。皆さんのお祈りと励ましに感謝します。

明るいニュースもあります。10月はじめに希望の家法人と提携して、ディルが友人と共同でプナールのビルの一室に歯科クリニックを開設しました。地域社会に貢

献するために長い間準備をしてきた計画が実現しました。またそれのために延期になっていたディルの結婚式を行いました。



アブラハム・シーナ夫妻
後列は次男ディル夫妻と左右は長男夫妻

希望の家のあるケララ州はインドで最悪の感染地域であり、インド全体の70%の感染者がケララ州の住民という日もありました。今も戦いが続いています。聖隷希望の家に変わらぬ関心を持ち愛と支援を寄せてくださる聖隷の皆様感謝し、ケアと支援を必要とする障害のある人や高齢者、そして地域の人々のために私たちは働きま

(10/8)

代表 アブラハム・ヴァルゲーズ



聖隷福祉事業団

新理事長就任 最善を尽くす職員への感謝



青木善治
新理事長

聖隷福祉事業団は2020年5月に創立90周年を迎えました。コロナ禍により計画しておりました式典や各施設の催事は中止となりましたが、これまで聖隷を支えていただいた皆様への感謝と聖隷の理念について考える機会とさせていただきます。また、何よりコロナ禍で日々最善を尽くしている職員にはあらゆる機会を通じて感謝の気持ちを伝えてまいりました。

事業のトピックスとしては、2019年6月より運営を開始した精神障がい者の方の地域移行を支援する為の居住サービス「福祉共同住居ファーストステップ」が軌道にのり定員を10名に拡大しました。また、2018年度より運営に参画している浜松市の障がい者相談支援事業所が再編され、聖隷福祉事業団は中区を小羊学園、NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会と、北区では小羊学園と協力して「障がい者相談支

援センター」として運営受託いたしました。

磐田市では新たな取り組みとして、聖隷こども園こうのとり富丘と聖隷訪問看護ステーション富丘及び聖隷こども発達支援事業所からみあ富丘からなる複合施設「聖隷こうのとり富丘」を開設いたしました。



聖隷こうのとり富丘

2021年度は、故長谷川力前理事長から引き継ぎ20年間に渡り理事長を務めた山本敏博が退任し、青木善治が新理事長に就任いたしました。引き続き職員一丸となり地域・利用者の期待に応え、日本の保健・医療・介護・福祉に新たな価値を創出する法人として、より一層強固な体制構築に努めてまいります。

(10/27 総務部長 彦坂浩史)

十字の園

地域の励ましと神様のお支え

こんにちは。昨年引き続きコロナ禍の中で職員の皆様の努力と神様のお支えを頼りに歩んでおります。十字の園の近況ですが、コロナ禍の第四派と第五派の間にあたる6月から7月にかけて松崎十字の園の障がい者施設オリブにおいて入所者5名、職員2名のコロナ感染があり、クラスターと認定されました。全国的には少し落ち着いた時期でしたので、西伊豆の小さな町ではインパクトが大きく、高齢者施設と併設されている事もあり、ご家族や地域に心配が広がりました。



しかし、伊豆加茂地区の保健所、松崎十字の園の嘱託医と密に連携をとり、地域の皆様には差入れや励ましのお言葉を頂きながら地域と一つとなって取り組むことができました。

今回のクラスターでは、入所施設の職員が感染したので、就労支

援事業を休止し、慣れない職員が支援に入り施設利用者の24時間の生活を繋いでいきました。看護師などの主要な職員は泊まり込みで職場一丸となつて支え合つた。

地域の皆様や職員の皆様の働きに心から感謝し、その全ての中で神様のお支えがあり

ました事に感謝が つきません。

これからも様々な事が起こると思いますが、神様のお支えの中で、皆様と一緒に歩んで参りたいと思います。

(11/1 理事長 鈴木淳司)



牧ノ原やまばと学園

喜びは分かち合うことによつて

2021年5月には、創立50周年記念誌(本冊)「それでも一緒に歩いていく」と別冊「私たちの活動」を発行。コロナのため式典等



が全て中止となる中、当法人の過去・現在・未来をつなぐ記念誌を出せたのは幸いでした。

6月には、インドネシア人のEPA生（セプテイさん）が聖ルカホームで働き始めました。高齢者施設では、韓国の人、中国の人、フィリピンの人たちがすでに働いていて、日本人ワーカーたちにとっても良い刺激を与えています。



右：運動会
上左：「さざんか」建設
下右：ハローウィン行事
下左：書道クラブ

9月1日、コロナへの警戒がまだ続いていましたが、重い障害を持つ人たちの通所施設「ケアセン

ターさざんか」と、高齢者の通所施設「デイサービスセンター真菜」の起工式を挙行。聖ルカホーム（特養ホーム）と同じ敷地内に並んで建つ面白い設計です。近くにはグレイス（小規模特養ホーム）もあり、今後は、この地を中心にして、ともに生きるコミュニティが広がっていきますようお願いしています。

9月末には緊急事態宣言が解除され、そろりそろりと、面会制限などを外しつつあります。そんな中、近隣の農家の方が、お米60キロを次々に本部玄関へ運んでこられました。毎年お米を30キロ寄贈して下さる方ですが、昨年はコロナで届けられなかったのが、「2年分」とのこと。貴重な贈り物に、職員一同感激しました。

そのお米を、「ご利用者のために使ってください」と、給食委託業者に渡したところ、翌日、「さつまいもがたっぷり入ったホクホクの炊き込みご飯」と、「根菜類がたっぷり入ったけんちん汁」のごちそうになって、本部の私たちスタッフのところにも届けられました。

「喜びは分かち合うことよって倍になり、悲しみは分かち合うことよって半分になる」という言葉を思い出したことでした。

(11/3 理事長 長澤道子)

小羊学園

地元の協力で新築・移転着工

この一年も法人内諸施設においては、新型コロナウイルス感染症予防対応に追われました。いっどこで感染者がでてもおかしくない状況下、通園施設で児童1名の陽性者がありました。施設内での感染には至らず、複数の施設で職員家族の陽性者もありましたが職員自身への感染はまぬがれ、全体としては想定した感染拡大抑制の対応をすることはなく、今まで過ごすことができたことは幸いなことでした。しかし、ご利用者、ご家族、地域の皆さまにはさまざまにご不便をおかけしましたし、職員をはじめそのご家族にも感染リスク回避のための自粛と情報提供をお願いし、大きなストレスがかかったことと思ひます。忍耐強くご協力くださったことに心より感謝するところです。



そのような状況にあつて、かねてより課題となっていた浜松市南区での事業（生活介護事業マルカート、放課後等デイサービスドル

チエ）の新築移転について、地元の方から用地の無償貸与のご協力のもと、何とか着工することができました。来年春には竣工し、新年度より新しい建物での活動がはじめられる予定です。



これまで、障がい児者支援の地域ネットワーク構築のための働きかけをしてきましたが、浜松市委託相談支援事業は全体を統括する基幹相談支援センターに加え、市内五箇所

に設置された区域ごとの相談支援センターについても、それぞれ複数法人が共同で運営するようになりました。

今、一番の課題は、最も対応の難しい他害や破壊行為などの行動特性のある在宅の障がい児者への対応です。施設や病院に長期隔離にならないような支援体制の構築のため試行錯誤をしています。ただでさえ職員確保に苦戦する中、困難な働きを担ってくれる職員はさらに負担が大きく、「働き手を送ってくださるように、収穫の主に願う（ルカ10：2）」ことの毎日です。

(11/7 理事長 稲松義人)

聖隷学園

聖隷クリストファー高校

野球部初の甲子園出場へ前進

高等学校野球部は11月7日に行われた秋季東海地区（静岡・愛知・岐阜・三重）



高等学校野球大会で準優勝し、東海地区から2校が選ばれた。来春の第94回選抜高等学校野球大会出場に大きく前進しました。

同校野球部は1985年に創部、4年前に就任した名将上村敏正監督（校長・

監督兼任）のもとでめきめきと実力をつけ、2020年の夏季静岡県高校野球大会で優勝しましたがコロナ禍のため甲子園大会は中止に。今では県内強豪校と呼ばれるまでに成長し、来年1月に発表される「春の甲子園」出場校に選ばれる可能性が高くなりました。聖隷グループの皆様、施設等利用者の皆様、引き続きお祈りと応援をよろしくお願いいたします。

(11/9 専務理事 小柳守弘)

長谷川保聖書研究

マタイによる福音書

第六章三三〜三四節

《あすのことを思いわずらうな》

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」

着ること、食うこと、名誉、財産、そういうものをまず求めていくものだから、それらを得られない。得られてもじきになくなる。人生は極めて短いですから、そういうものを求めていったら、どっちにしてもなくなってしまう。自分がなくなってしまうか、それ自体がなくなるか。どっちもなくなってしまう。

神の国と神の義とだけを求めていくためには、必要なものは全部与えられる。驚くほどに与えられます。それがこの聖隷福祉事業団の50年の実験です。50円で始めたものがこんなにたくさんの人を救って、なおこんなにたくさんを持っているのですから。けれども、もしその精神を失えば、神の国と神の義とを求めるといふ、第一に、最初にそれを求めるといふことがなくなれば、必ず滅びます。世界の歴史はそれを明確にしている。人間の正体自体もそれを明確にしていますね。だから、私どもはど

んなときにもこの言葉が大事です。33節の言葉。第一に、最初に、神の国と神の義とを求めるといふ必要なものごとく与えられる。これは私どもの実験の結果、全くそうです。

「だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である」

一日の苦勞は、その日一日だけのことを考えればよい。あとは、神の国と神の義とを求めていく。それだけでよい。明日は、明日自身が明日になって考えればよい。こういうことです。明日になったら明日のことを考える。きょうはきょうのことを考える。それだけでよい。ただ、神の国とその義とを求めて行く。その日一日だけ一生懸命にやる。

これらのことは、何もきれいな着物や、おいしい食事、また財産を否定したものでないのです。カルヴィンなどは、お料理を安くそにするのは神の賜ったものを粗末にする罪だと言っていますから、お料理もおいしく食べるように料理をする。着物も私どもの必要に応じて、きれいな着物を着る。財産も必要なだけは持つ。問題はそれが主になってはいけません。それが神様になってはいけません。

それらはことごとく神の国のものであって、言い換えれば、私どもすべての者たちが一つになって、神の御支配の中に喜んで生活をする。神のお命じになった愛の生活をするということのために必要であるというだけのことであって、それが神様であってはいらないということ。

そうではなくて第一に、最初に神の国と神の義とを求めるといふものはそのために必要な道具であって、互いに愛するため、互いに健康な生活をしていくため。そういうことです。だから大いに経済の生活を立派にし、金もうけをしてよい。それらはことごとく愛を行うためのその道具にすぎないということです。

それをいつでも逆に間違えてしまいますね。順序を間違えてしまふ。第一に、最初に、がどこかに行ってしまふのです。すべてのものは神が与え給うた、神より賜った恵みですから、それを尊重する。そして何をするか。愛を行う。神の王国、愛の神のみが支配をなさいます。国、社会を作り出すために、それらのすべてものを用いてゆく。これがキリスト教の道なんです。

(聖句の引用は口語訳聖書より。既刊「長谷川保聖書研究 マタイによる福音書」より抜粋)